

第2WGにおける論点等（案）

1. 障害者就労を支える人材の育成・確保に係る現状の課題

- 雇用、福祉それぞれの現場に携わる人材について、双方の分野に係る知識・スキルを十分に有していない場合が多く、「福祉」から「雇用」（又は「雇用」から「福祉」）における切れ目ない支援が行われにくいのではないか。
- 精神・発達障害者、重度障害者等に対する支援のニーズ、中長期的なキャリア形成のニーズ、テレワーク等の多様な働き方のニーズが増大するなど、就労支援のニーズが多様化しているが、これに対応できる人材が質・量ともに不足しているのではないか。

2. 論点

- (1) 課題に対して求められる人材育成について
 - 雇用、福祉の分野横断的な基礎的知識・スキルの付与が必要ではないか（現行の就業支援基礎研修との再整理が必要ではないか）。
 - 分野横断的な基本的知識・スキルとして求められるものは何か。
 - 専門人材の高度化に向けた階層的な人材育成についてどう考えるか。
- (2) 人材育成の対象について
 - 雇用、福祉横断的な基礎的知識・スキルを付与する場合、その対象範囲をどう考えるか。
 - 悉皆的な受講等の仕組みをどう考えるか。
 - 専門人材の範囲をどう考えるか。
- (3) 人材育成の実施主体について
 - それぞれの人材育成について実施主体はどこが担うのか。
 - 官民の役割分担をどう考えるか。
 - 研修の質の担保をどう考えるか。
- (4) 人材育成・確保の留意点について
 - 雇用、福祉の人材の役割分担をどのように考えるか。